

# 1. N-バスの課題に対する対応の方向性（案）

第 30 回会議で整理したN-バスの課題の総括のうち、路線設定に関わる課題とそれに対する方向性を、右記のA～Fについて整理した。これらに基づき、路線見直しの方向性の整理を行った。

第 30 回会議（12/17）で整理したN-バスの課題の総括

N-バスの課題に対する対応の方向性 ※次頁左のイメージ図参照

## 1) サービス水準の側面

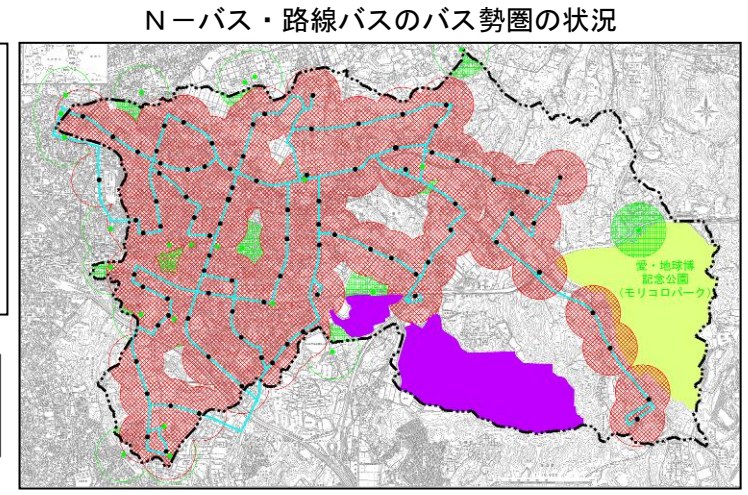
- ① サービス水準に対する不満
  - ・市全体的に「運行本数が少ない」ことへの不満への対応
  - ・「乗換えが不便」の不満が大きい地域への対応（乗継利用割合はN-バス全体でも約 15%と少なく、特に杵ヶ池公園駅（北口・南口）及び戸田谷では、H23 調査時に比べてH26 調査では乗継利用割合が減少している。）
- ② 移動ニーズ面の対応
  - ・「日常生活で行く必要があるところに行けない」「行けたらいいと思うところに行けない」ことへの不満が大きい地域への対応
  - ・公共交通で行けるようになって欲しい施設への移動ニーズに対する対応
  - ・利用者数の多い愛知医大バス停では、バス停に集まる側と他のバス停に向かう側の利用者の差が大きく、移動時間帯に合った運行に向けた対応

- A. 今回の見直しでは、現在の車両数 5 台での運行を基本とし、運行経路の面で都市構造の変化（人口増加、面整備等）への対応を主体に考える。この場合、運行本数の不満に対する対応は難しいが、運行ダイヤの工夫や乗継利便性の確保によってニーズへの対応を図る。
- B. 「日常生活で行く必要があるところに行けない」「行けたらいいと思うところに行けない」ことへの不満が大きい地域は、南部（No. 7・10）、北部（No. 12-1）及び東部（No. 11・14-1）で目立っており、乗換えが不便の不満が多い地域とも合致している（次頁図 1〇印参照）。これらの地域での「公共交通で行けるようになって欲しい場所や施設」は、下記のとおりとなっており、対応可能性を検討する（次頁図 2 参照）。
  - 南部（No. 7・10）→市役所、中央図書館、愛知医大、福祉の家
  - 北部（No. 12-1）→南部地区
  - 東部（No. 11・14-1）→中央図書館、文化の家

## 2) 運行の効率化の側面

- ① 利用実態に応じたサービス水準の確保
  - ・路線により 1 便当たりの利用者数に差があり、これまでの調査などから利用者数が少ないバス停があることを踏まえ、利用実態に応じたサービス水準設定への対応
- ② 市の財政負担を踏まえたサービスの展開
  - ・市では平成 21 年度以降、年間約 8,000～9,000 万円前後の財政負担によってN-バスを維持しており、今後の高齢化の進展を踏まえた持続可能性を念頭に置いた対応

- C. N-バス、路線バスのバス停は概ね市内全域をカバーしており、引き続きN-バスの目的の一つである「市内交通空白地帯の解消」を基本とする。その上で、バス停の見直しについては、路線全体の利便性を考慮し検討する。



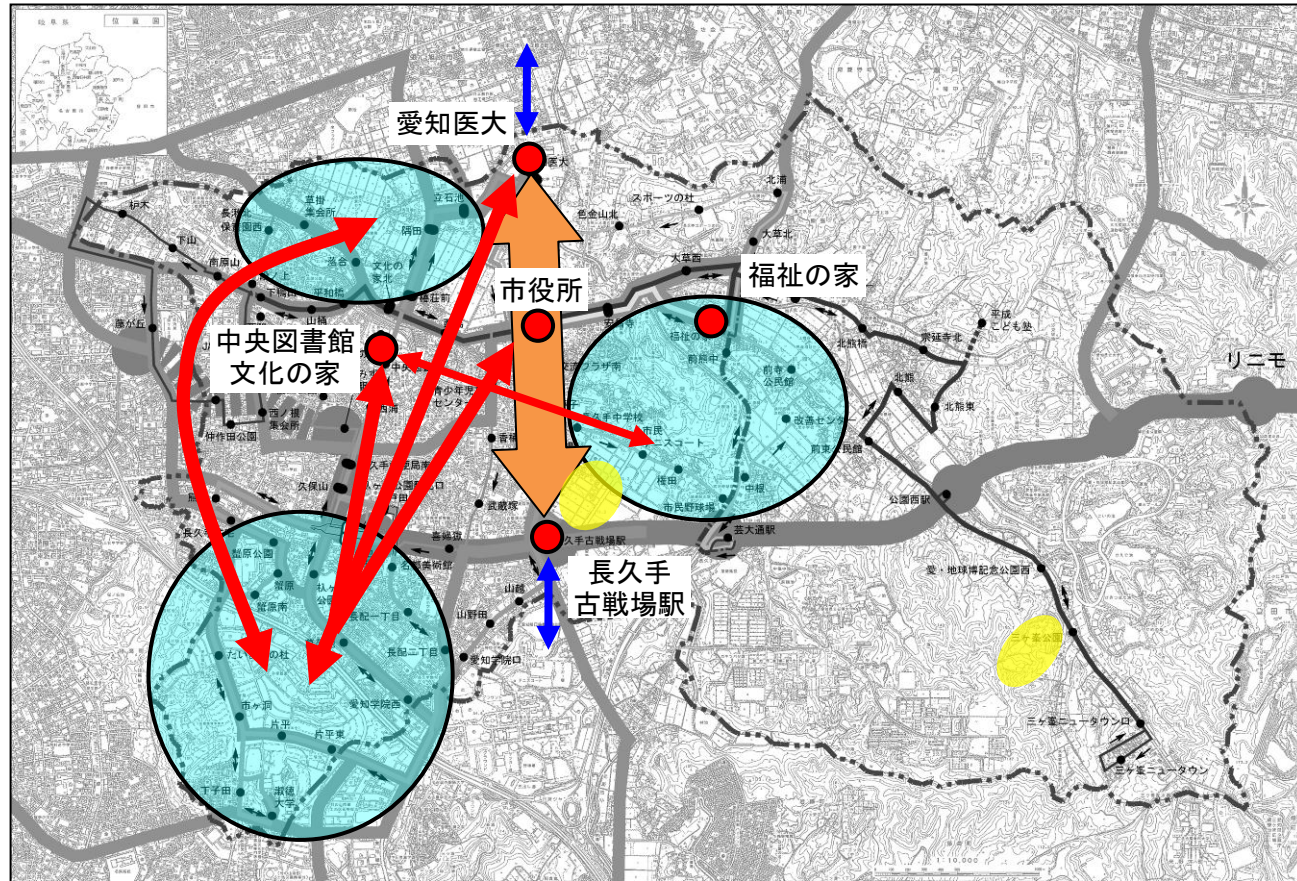
## 3) 各種計画との連携の側面

- ① 民間バス路線との連携
  - ・路線バス計画と重複するN-バスの路線の対応
- ② 隣接市との連携
  - ・隣接市への移動ニーズを踏まえ、現在、愛知医大と長久手古戦場駅で接続する隣接市のコミュニティバスとの接続利便性の確保に向けた対応
- ③ 面整備計画との連携
  - ・市内各地で進行する面整備や宅地開発に伴う新たな移動ニーズへの対応

- D. 愛知医大～市役所～長久手古戦場駅間の路線バス計画と重複する路線について、利用実態面での競合可能性の検証及び運行ルートを検討する。
- E. 現路線においても、愛知医大及び長久手古戦場駅で、隣接市のコミュニティバスと接続しており、愛知医大及び長久手古戦場駅への接続は見直し後も継続し、隣接市との連携を図って乗継利便性を考慮した運行ダイヤの調整を行う。
- F. 長久手中央地区の面整備計画、三ヶ峯地区の宅地開発地区との連携については、走行延長の変化による路線全体のサービス水準への影響や、移動ニーズを踏まえた必要性を考慮の上で、対応可能性を検討する。



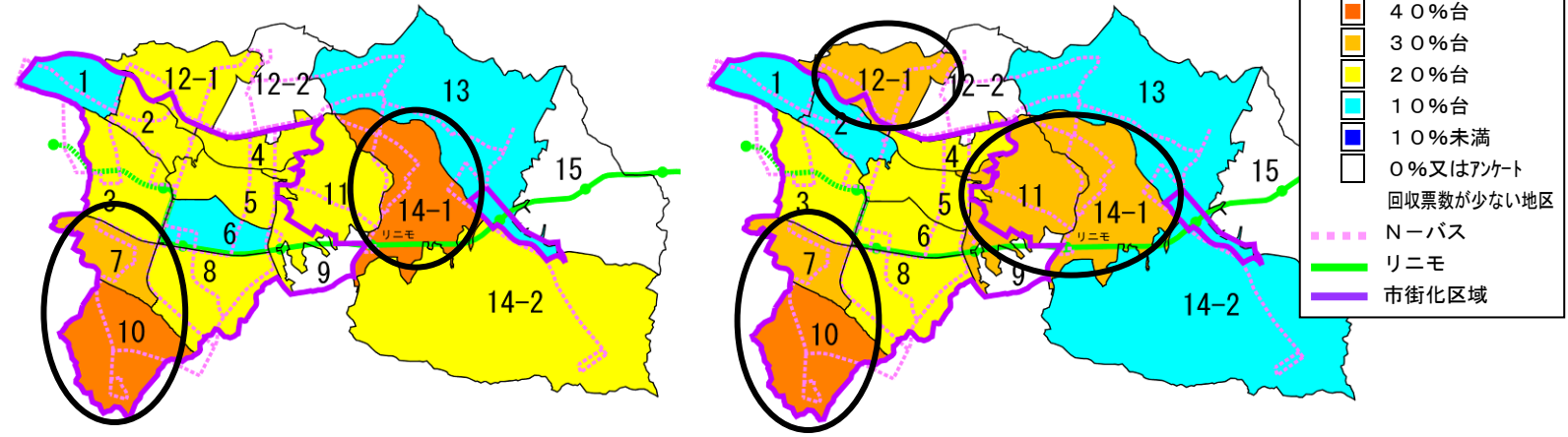
課題に対する対応の方向性のイメージ図



- ↔ 接続の対応可能性を検討の上で路線設定
- ↔ 競合可能性を検証の上で路線設定
- ↔ 隣接市との接続を継続
- 面整備計画と連携を検討

日常生活で行く必要があるところに行けない

行けたらいいと思うところに行けない



運行本数が少ない

乗換えが不便

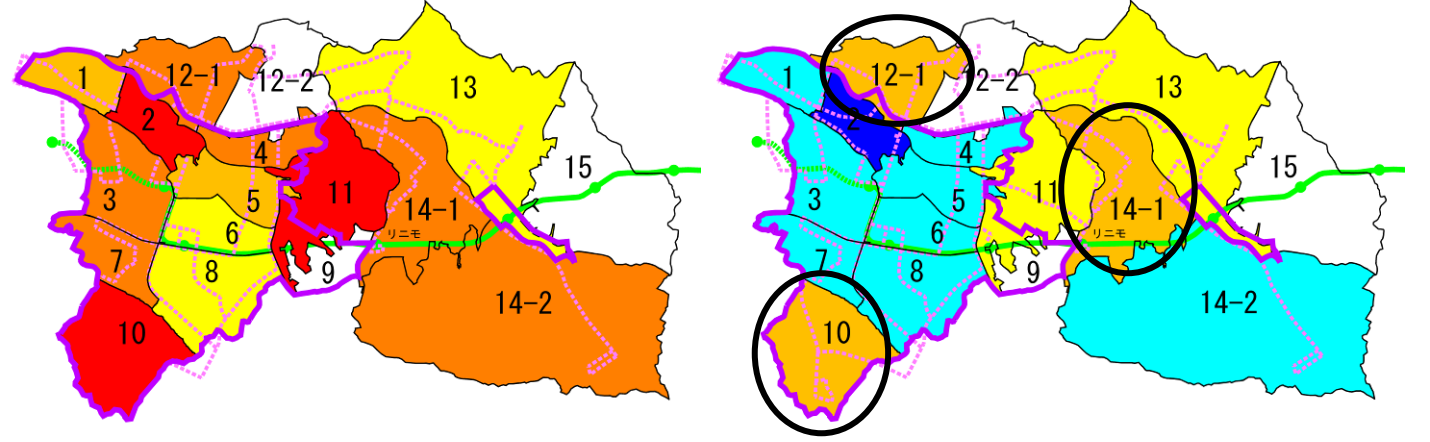
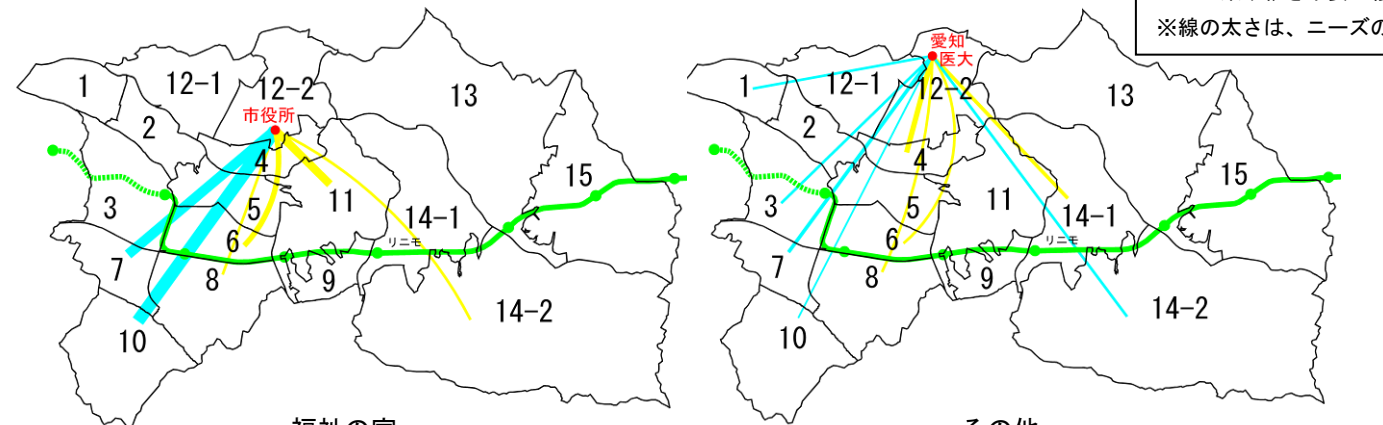


図 1 地区別の回答者総数に対するNーバスを利用しない理由別の回答比率

市役所

愛知医大



福祉の家

その他

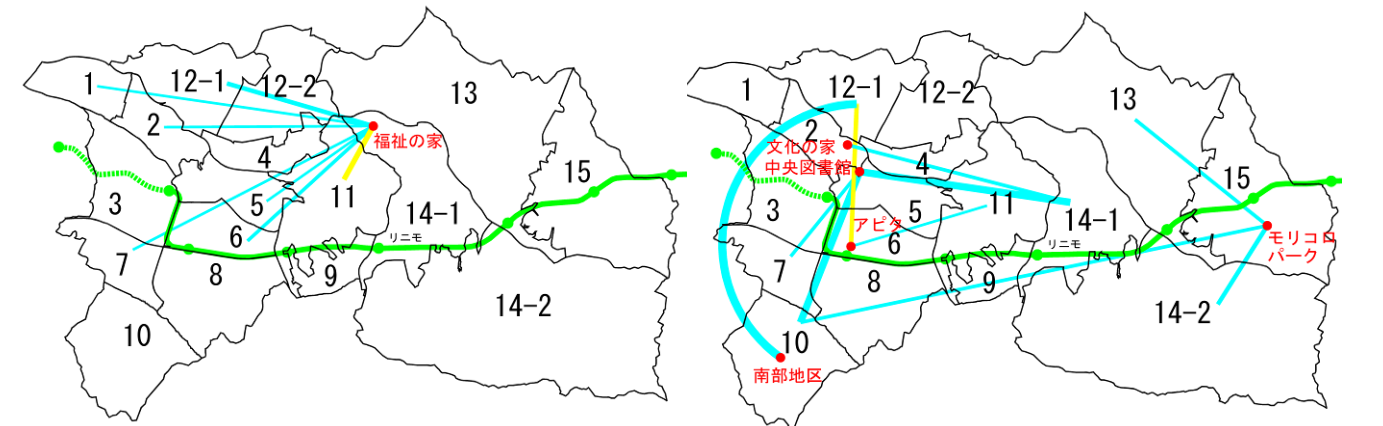


図 2 公共交通で行けるようになって欲しい場所や施設の地区別ニーズ



## 2. N-バスの路線見直しの方向性（案）

- ① 南部線の市役所方面への接続の検討、及び南部地区内の運行ルートの変更
  - ・南部地区から市役所方面への接続ニーズの多さを踏まえて、南部線の市役所方面への直通運行に向けて、接続ルート、運行形態の検討を行う。
  - ・また、南部地区内における人口増加を踏まえて、新たな経由地の検討を行う。
- ② 中央循環線と新たな路線バス計画との連携に向けた運行ルートの調整及び検討
  - ・中央循環線と、愛知医大～市役所～長久手古戦場駅間の路線バス計画と運行経路が重複することが予想されるため、当区間の運行ルートの調整及び変更等の検討を行う。
- ③ 東部線の長久手古戦場駅接続の検討
  - ・長久手中央地区における面整備計画と連携するため、同地区付近を運行する東部線について、長久手古戦場駅への接続ルートの検討を行う。
- ④ 西部線、東部線の双方向運行化の検討
  - ・現在片方向運行の西部線、東部線については、利便性向上のため双方向運行化の検討を行う。
- ⑤ 三ヶ峯線の宅地開発地区の利便性確保の検討
  - ・三ヶ峯線沿線の宅地開発地区における移動ニーズに応じて、利便性確保に向けた検討を行う。

